別海町立野付小学校　学校便り

三角帆

◆発行責任者　校長　青坂信司

◆発　行　日　平成２４年７月１日

平成２４年度学校テーマ「学び続ける学校」　第４号

他人の悪口は言わない

校長　青坂　信司

◆教師になりたての頃、夏に帰省した時、隣に住む叔母さんと話したこと。それを今でも私は忘れていません。叔母さんは、私の母の妹になります。身内の私が言うのも恥ずかしいことですが、なかなか聡明な方で、仕事でもそれなりに成功をおさめています。とても話好きですが、聞き上手な叔母さんです。

◆叔母さんに悩みを打ち明けました。
「自分は、音痴だし、字も下手で教師としてやっていけるかわからない」
と教師になりたての私は叔母さんに言いました。
叔母さんは、私の話を聞いて、次のような話をしました。
「私は、どんな先生であれ、我が子の担任の先生ならば、絶対に子どもの前で、その先生の悪口は言わないようにしているよ。」
「字が下手だ、というのは客観的な事実だから、悪口を言わないつもりでも悪口になってしまうことってあるよね」と私。
「私の娘の先生。黒板に書く字がとても汚いんだよね。だけど、そのことを娘に言ったことはないよ。」
「だけど娘から、先生字が下手だよね、と言われたら、どう言うの？」
「とっても個性的な字なんだよ、と言ってきたよ」と叔母さん。

◆「汚い字」のことを「個性的な字」とみる発想。しかも我が子にはどんな先生であれ、先生の悪口は言わない。そのことを叔母さんから聞いた時、教師として何とうれしい陰ながらの応援だろう、と思ったものです。教師としてやっていけるか自信のなかった私は、叔母さんのように子どもに話してくれたらどんなに精神的に楽になるだろうと思ったものです。

◆子どもは親の鏡です。親が幸せに過ごしていれば、子どもも幸せです。親が車からゴミを捨てれば、子どもも車の窓からゴミを捨てるような人間になります。親が、いつも不平・不満を言っていれば、子どももいつか不平・不満ばかり言っている大人になってしまいます。

◆親が他人の悪口を言わない。少なくても子どもの前では言わない。そうすれば、子どもは人のことを差別しない、馬鹿にしない人となります。

◆ある会社の社長さんが言っていました。
「私は、部下職員の悪口は言わない。言えば、必ず会社の中の人間関係は壊れる。お客様の悪口は絶対言わない。言えば、それが必ず態度に出る。表情に出る。お客様が去っていく原因になる。悪口は、組織を破壊するガンのようなものだ」

◆中学・高校時代の私がバレーに情熱を傾けて得た教訓の一つに「人の責任にはしない」というのがあります。私は、セッターでした。自分なりにいいトスを上げたとしても、アタッカーがミスったら自分のチームは勝つことはできません。しかし、アタッカーに責任を押し付けるような考え方では、決してチームが強くなることはありませんでした。アタッカーがミスした原因、それは私のトスがダメだったからだ。どんなレシーブでも、どんな体勢からでもアタッカーに「さぁ、打ってください」というようなトスを上げること。このような考え方を身につけることこそ、勝利への道でした。